

秘

海軍公報

第四九〇四號

昭和二十年一月十六日(火)

海軍大臣官房

○令達

内令第一三號

艦艇類別等級別表中左ノ通改正ス

昭和二十年一月八日

海軍大臣

内令第一四號

潛水隊編制中左ノ通改定セラル

昭和二十年一月八日

第一潛水隊ノ項中「伊號第四百」ノ下ニ

加フ

内令第一五號

(内令提要卷一、七〇頁参照)

驅逐艦

内令第一五號

(内令提要卷一、七〇頁参照)

秘海軍公報 第四九〇四號 昭和二十年一月十六日

四七

右本籍ヲ吳鎮守府ト假定ス

右本籍ヲ横須賀鎮守府ト假定ス

右本籍ヲ

第十九號海防艦

右本籍ヲ

第十八號海防艦

右本籍ヲ

第十七號海防艦

右本籍ヲ

第十六號海防艦

右本籍ヲ

第十五號海防艦

右本籍ヲ

第十四號海防艦

右本籍ヲ

第十三號海防艦

右本籍ヲ

第十二號海防艦

右本籍ヲ

第十號海防艦

右本籍ヲ

驅逐艦、一等松型ノ項中「椎」ノ下ニ「桂」ヲ、「楓」ノ下ニ
 桧、楠、柏、初櫻、八重櫻、雄竹、初梅」ヲ加フ
 海防艦、御藏型ノ項中「目斗」ノ下ニ「波太」ヲ、同鶴來型
 ノ項中「宇久」ノ下ニ「高根」ヲ、「保萬」ノ下ニ「伊唐
 生野」ヲ、同第一號型ノ項中「第八十七號」ノ下ニ「第八十
 八號」ヲ、「第九十五號」ノ下ニ「第九十七號、第一百五號」ヲ、
 「第二百二十一號」ノ下ニ「第二百二十五號」ヲ、同第二號型
 ノ項中「第六十號」ノ下ニ「第六十二號」ヲ、「第七十六號」
 ノ下ニ「第七十八號」ヲ、「第一百十二號」ノ下ニ「第一百六
 十六號」ヲ、「第一百五十六號」ノ下ニ「第一百五十八號」ヲ、「第一百
 九十二號」ノ下ニ「第一百九十四號、第一百九十六號」ヲ加フ
 輸送艦、一等第一號型ノ項中「第十八號」ノ下ニ「第十九號、
 第二十號」ヲ加フ

(内令提要卷三、三三頁参照)

秘海軍公報 第四九〇四號 昭和二十年一月十六日

四八

驅逐艦 雄 竹野 夕月

驅逐艦、一等峯風型ノ項中「秋風」ヲ、同「卯月型」ヲ削ル

海防艦 生 竹野

春、「ヲ、同滿潮型ノ項中「満潮、朝雲、山雲」ヲ、同不知火型ノ項中「浦風」「野分」ヲ、同夕雲型ノ項中「長波、濱波、沖波、岸波」、「早霜、秋霜」ヲ、同秋月型ノ項中「若月、霜月」ヲ、同「島風」ヲ削ル

第六十二號海防艦

春、「ヲ、同滿潮型ノ項中「満潮、朝雲、山雲」ヲ、同不知火型ノ項中「浦風」「野分」ヲ、同夕雲型ノ項中「長波、濱

第一百六十六號海防艦

春、「ヲ、同滿潮型ノ項中「満潮、朝雲、山雲」ヲ、同不知火型ノ項中「浦風」「野分」ヲ、同夕雲型ノ項中「長波、濱

第九十九號海防艦

春、「ヲ、同滿潮型ノ項中「満潮、朝雲、山雲」ヲ、同不知火型ノ項中「浦風」「野分」ヲ、同夕雲型ノ項中「長波、濱

第一百五十七號海防艦

春、「ヲ、同滿潮型ノ項中「満潮、朝雲、山雲」ヲ、同不知火型ノ項中「浦風」「野分」ヲ、同夕雲型ノ項中「長波、濱

第一百五十五號海防艦

春、「ヲ、同滿潮型ノ項中「満潮、朝雲、山雲」ヲ、同不知火型ノ項中「浦風」「野分」ヲ、同夕雲型ノ項中「長波、濱

第一百五十八號海防艦

春、「ヲ、同滿潮型ノ項中「満潮、朝雲、山雲」ヲ、同不知火型ノ項中「浦風」「野分」ヲ、同夕雲型ノ項中「長波、濱

右本籍ヲ佐世保鎮守府ト假定ス

昭和二十年一月八日

海軍大臣

春、「ヲ、同滿潮型ノ項中「満潮、朝雲、山雲」ヲ、同不知火型ノ項中「浦風」「野分」ヲ、同夕雲型ノ項中「長波、濱

第一百五十九號海防艦

春、「ヲ、同滿潮型ノ項中「満潮、朝雲、山雲」ヲ、同不知火型ノ項中「浦風」「野分」ヲ、同夕雲型ノ項中「長波、濱

第一百六十號海防艦

春、「ヲ、同滿潮型ノ項中「満潮、朝雲、山雲」ヲ、同不知火型ノ項中「浦風」「野分」ヲ、同夕雲型ノ項中「長波、濱

第一百六十一號海防艦

春、「ヲ、同滿潮型ノ項中「満潮、朝雲、山雲」ヲ、同不知火型ノ項中「浦風」「野分」ヲ、同夕雲型ノ項中「長波、濱

第一百六十二號海防艦

春、「ヲ、同滿潮型ノ項中「満潮、朝雲、山雲」ヲ、同不知火型ノ項中「浦風」「野分」ヲ、同夕雲型ノ項中「長波、濱

第一百六十三號海防艦

春、「ヲ、同滿潮型ノ項中「満潮、朝雲、山雲」ヲ、同不知火型ノ項中「浦風」「野分」ヲ、同夕雲型ノ項中「長波、濱

第一百六十四號海防艦

春、「ヲ、同滿潮型ノ項中「満潮、朝雲、山雲」ヲ、同不知火型ノ項中「浦風」「野分」ヲ、同夕雲型ノ項中「長波、濱

第一百六十五號海防艦

春、「ヲ、同滿潮型ノ項中「満潮、朝雲、山雲」ヲ、同不知火型ノ項中「浦風」「野分」ヲ、同夕雲型ノ項中「長波、濱

内令第一七號
(内令提要卷三、三三頁參照)

内令第一六號
(内令提要卷三、三三頁參照)

内令第一五號
(内令提要卷三、三三頁參照)

内令第一四號
(内令提要卷三、三三頁參照)

内令第一三號
(内令提要卷三、三三頁參照)

内令第一二號
(内令提要卷三、三三頁參照)

内令第一一號
(内令提要卷三、三三頁參照)

内令第一〇號
(内令提要卷三、三三頁參照)

内令第一九號
(内令提要卷三、三三頁參照)

内令第一八號
(内令提要卷三、三三頁參照)

軍艦、巡洋艦二等ノ部中
航空母艦大鷦鷯ノ項中「神鷗」ヲ、同敷設艦ノ部中「嚴島」ヲ、同
艦艇類別等級別表中左ノ通改正ス

昭和二十年一月十日

海軍大臣

春、「ヲ、同滿潮型ノ項中「満潮、朝雲、山雲」ヲ、同不知火型ノ項中「浦風」「野分」ヲ、同夕雲型ノ項中「長波、濱

水雷艇、鴻型ノ項中「鶴」、「鷺」ヲ削ル

掃海艇、第十三號型ノ項中「第十八號」ヲ、同第十九號型ノ項中「第百四十二號」、「第百四十二號」ヲ削ル

驅潛艇、第十四號型ノ項中「第三十六號」、「第四十五號」、「第四十六號」、「第五十三號」ヲ削ル

哨戒艇ノ部中「第四十六號」、「第五號」、「第七號」ヲ削ル

特務艦類別等級別表中左ノ通改正ス

昭和二十年一月十日

海軍大臣

運送艦ノ部中「鞍埼」ヲ削ル

(内令提要卷三、四一頁參照)

内令第一八號

特務艇類別等級別表中左ノ通改正ス

昭和二十年一月十日

海軍大臣

特務艇、驅潛特務艇第一號型ノ項中「第九十二號」ヲ、同末尾ノ項中「第一百六號」ヲ、同掃海特務艇第三號型ノ項中「第二十一號」ヲ削ル

(内令提要卷三、四三頁參照)

内令第一九號

海軍航空隊編制令中左ノ通改正セラル

昭和二十年一月十日

海軍大臣

第十條第二號中「シ又ハ飛行機ノ準備ニ從事」ヲ削ル

第十二條第一號中「又必要ニ應ジ」ヲ削ル

第十二條ノ二中「準備」ノ下ニ「其ノ他司令ノ定ムル飛行機ノ應急修補」ヲ加フ

第十二條ノ三第四號(四)中「航空兵器」ヲ「航空計器」ニ改メ同

秘海軍公報 第四九〇四號 昭和二十年一月十六日

條第六號ノ次ニ左ノ一號ヲ加フ

七 航空修補員 飛行機ノ應急修補ニ從事スルト共ニ飛行機ノ整備、検査及準備ニ從事スル者ニシテ其ノ業務ニ應ジ左ノ如ク區別呼稱ス

(イ) 航空修補班下士官 飛行機ノ應急修補ニ從事スルト共ニ飛行機ノ整備、検査及準備ニ從事シ直接之ガ指導ニ任ズル者ニシテ整備兵曹ヲ以テ之ニ充ツ

(ロ) 航空修補員 飛行機ノ應急修補ニ從事スルト共ニ之ガ整備、検査及準備ニ從事スル者ニシテ整備員ヲ以テ之ニ充ツ

第十三條第四號ヲ左ノ如ク改ム

四 一般無線整備員 掌通信長ノ命ヲ承ケ一般無線兵器ノ調整及整備ニ從事スル者ニシテ水兵員ヲ以テ之ニ充ツ

同條第八號ヲ左ノ如ク改ム

八 有線電話部

九 暗號部

十 航空電波兵器整備部

第十六條ノ二ヲ第十六條ノ三トシ同條第二號中「下士官」ノ下ニ「兵」ヲ加ヘ同號ニ左ノ一項ヲ加フ

本號ノ隊附士官、特務士官、准士官ヲ特ニ暗號士ト稱ス

第十六條ノ二有線電話部ノ編制左ノ如シ

一 有線電話部指揮官 通信指揮官ノ命ヲ承ケ有線電話部ヲ指揮スル者ニシテ隊附兵科特務士官、准士官ヲ以テ之ニ充

ツ

二 有線電話員 有線電話ノ通話業務及交換業務ニ從事スル者ニシテ水兵員又ハ整備員ヲ以テ之ニ充ツ

三 有線電話整備員 有線電話兵器ノ調整及整備ニ從事スル者ニシテ水兵員ヲ以テ之ニ充ツ

第十六條ノ四 航空電波兵器整備部ノ編制左ノ如シ

一 航空電波兵器整備部指導官 通信長ノ命ヲ承ケ航空電波兵器整備部ヲ指揮スル者ニシテ分隊長又ハ隊附兵科士官、

特務士官、准士官ヲ以テ之ニ充ツ

二 航空電波兵器整備部 航空電波兵器整備部指導官ノ命ヲ承ケ其ノ業務ヲ補助スル者ニシテ隊附兵科士官、特務士官、准士官ヲ以テ之ニ充ツ

三 航空無線兵器員 航空無線兵器ノ調整、整備、検査及準備ニ從事スル者ニシテ其ノ業務ニ應ジ左ノ如ク區別呼稱ス

(イ) 航空無線班下士官 航空無線兵器ノ調整、整備、検査及準備ニ從事シ且直接之ガ指導ニ任ズル者ニシテ整備兵曹ヲ以テ之ニ充ツ

(ロ) 航空無線班員 航空無線兵器ノ調整、整備、検査及準備ニ從事スル者ニシテ整備員ヲ以テ之ニ充ツ

四 航空電測兵器員 航空電測兵器ノ調整、整備、検査及準備ニ從事スル者ニシテ其ノ業務ニ應ジ左ノ如ク區別呼稱ス
(イ) 航空電測兵器班下士官 航空電測兵器ノ調整、整備、検査及準備ニ從事シ且直接之ガ指導ニ任ズル者ニシテ整

備兵曹ヲ以テ之ニ充ツ

(ロ) 航空電測兵器班員 航空電測兵器ノ調整、整備、検査及準備ニ從事スル者ニシテ整備員ヲ以テ之ニ充ツ

第十八條第二號中「隊附兵科特務士官」ヲ「隊附兵科士官、特務士官」ニ改メ同條第五號中「及通信電話」ヲ、同條第六號中「見張」ヲ、同條第七號中「及整備員」ヲ削リ同條第八號ヲ左ノ如ク改ム

八 見張員 見張ニ從事スル者ニシテ水兵員及整備員ヲ以テ之ニ充ツ

第十九條第二號中「主官」ヲ削ル

第二十條第三號中「尉官」ヲ削ル

第二十二條中「飛行機等ノ修補」ノ下ニ「第十二條ノ二ノ規定ニ依ル飛行機ノ應急修補ヲ除ク」ヲ加フ

第二十七條第五號中「一個分隊」ヲ「三個分隊」ニ改ム

第二十八條中「飛行分隊、内務分隊又ハ修補分隊」ヲ「飛行科分隊、内務科分隊又ハ修補科分隊」ニ改ム

第二十九條第二號中「内務」ヲ削リ同條第三號中「内務分隊」ヲ「内務科分隊」ニ改ム

第三十條第一搭乗配置ノ部(イ)中「飛行士、飛行隊長、兵科尉官、飛行隊士、飛行隊附、飛行部指揮官」ヲ「飛行隊長、飛行部指揮官、飛行隊附及」ニ改ム
別表第三ヲ左ノ如ク改ム

某海軍航空隊分隊表

(例) 第何分隊(第何飛行部)

分隊長 少佐 大尉 一分隊士 兵科尉官 三
中少尉(飛) 二 飛行科 整備科 計
飛行員

配置 搭乗員 科別特技別章
操縦員 第一搭乗配置 下士官 兵 下士官 兵 計
通信傳令員 第二搭乗配置 中少尉(飛) 二 飛行兵曹長 四
射撃員 第一搭乗配置 記事

内令第二二號
正セラル
昭和二十年一月十日
海軍大臣
特設海軍航路部等ノ所管、所屬、名稱及所在地ノ件中左ノ通改
吳鎮守府ノ部中第四南遣艦隊所屬第百四海軍經理部ノ項ノ次ニ
左ノ如ク加ヘ同部中第二十五特別根據地隊、第二十六特別根據
地隊及第二十八根據地隊ノ項ヲ削ル

第百四海軍建設部 アンボン

内令第二三號
昭和二十年一月十日
海軍大臣

内令提要卷一、三八ノ四〇頁參照
特設海軍工作部等ノ所掌區分等ノ定ムルノ件中左ノ通改正ス

昭和二十年一月十日
海軍大臣

第百四海軍經理部ノ項ノ次ニ左ノ如ク加ヘ第二十五海軍建設
部、第二十六海軍建設部及第二十八海軍建設部ノ項ヲ削ル

内令第二〇號
(内令提要卷一、一二九頁參照)
昭和二十年一月十日
海軍大臣

昭和十八年内令第一號航空基地管理ニ關スル件中左ノ通改正ス

昭和二十年一月十日

海軍大臣

申良航空基地
志布志航空基地

改ム

(内令提要卷一、三〇ノ四一頁參照)

祕海軍公報欄第四九〇四號 昭和二十年一月十六日

五一

イ支部ノ項ヲ左ノ如ク改ム

建設百四海軍 マナ支部カイ	建設百四海軍 トル支部トア軍	建設百四海軍 カウ	トアール	カイマナ
ソロ	マノクリ	カウ	トアール	カイマナ

各所在方面ニ於ケル特設海軍建設事部ノ所掌ニ屬スル事項ノ一部ヲ分掌

(内令提要卷一、三八ノ四九頁参照)

官房人機密第一五號

本年一月十日現在第二十五、第二十六、第二十八海軍建設部ノ

職員タル者ハ特ニ發令セラルモノ又外別ニ辭令ヲ用ヒズシテ

第百四海軍建設部ノ各相當職員ニ補命セラレタル義ト心得ベシ

昭和二十年一月十日

海軍大臣

術科指導部規程

官房軍第二二號
術科指導部規程左ノ通定ム
昭和二十年一月十三日

臺灣臺南州臺南市鞍子

(臺灣海軍航空隊)

○基地移轉

○難款

臺灣海軍航空隊本部ハ左記ニ移轉ニ付轉動者ハ縱貫線臺南驛下車(徒步約五十分)赴任ノコトニ取計フ得度

第一條 術科指導部ハ所要ニ應ジ鎮守府、警備府、艦隊司令部等ニ之ヲ置キ所要ノ術科毎ニ指導班ヲ編成シ各部下及進出待機部隊等ノ術科能力ノ向上ニ寄與セシムルモノトス

第二條 術科指導部長ハ鎮守府、警備府又ハ艦隊ノ參謀長ヲ以テ之ニ充ツルヲ例トス
第三條 術科指導部長ハ指導法ニ關シ當時各術科學校ト密ニ連絡ヲ保ツモノトス
第四條 指導班ノ編制標準並ニ配屬先、班數及配屬期日ニ付テハ防空指導班ニ關スルモノハ別紙ニ依リ其ノ他ノ指導班ニ關スルモノハ別ニ之ヲ定ム

前項ノ外必要ナル事項ハ當該司令官ノ定ムル所ニ依ル
第五條 指導班長、班員及班附ハ上官ノ命ヲ承ケ服務ス
第六條 所要兵器及需品ハ既供給ノモノニ依ルヲ立前トシ所要ニ應ジ其ノ都度之ヲ定ム

秘

海軍公報

第四九〇五號

昭和二十年一月十七日(水)

海軍大臣官房

○令 達

昭和二十年一月十日

内令第三三號(軍極祕海軍公報第六二號(乙配付)ニ掲載)

内令第二四號

右本籍ヲ吳鎮守府ト定メラル

海防艦 羽 節 戸

右本籍ヲ佐世保鎮守府ト定メラル

吳鎮守府在籍

海防艦 羽 節 戸

右務備海防艦ト定メラル

特務艦 大 濱 戶

昭和二十年一月十日
右本籍ヲ横須賀鎮守府ト定メラル

海防艦 崎 節 戸

驅逐隊編制中左ノ通改定セラル

秘海軍公報 第四九〇五號 昭和二十年一月十七日

第二驅逐隊ノ項中「早霜、秋霜、」ヲ削ル
 第四驅逐隊ノ項ヲ削ル
 第七驅逐隊ノ項中「曙、」ヲ削ル
 第十七驅逐隊ノ項中「浦風、」ヲ削ル
 第二十一驅逐隊ノ項中「初春、」ヲ削ル
 第三十驅逐隊及第三十一驅逐隊ノ各項ヲ削ル
 第四十一驅逐隊ノ項中「霜月、」及「若月」ヲ削ル
 (内令提要卷一、六八頁参照)



右帝國驅逐艦籍ヨリ除カル	舞鶴鎮守府在籍	第一百四十一號輸送艦
吳鎮守府在籍	驅逐艦	第一百四十二號輸送艦
第七號海防艦	驅逐艦	岸
第三十八號海防艦	沖	濱
佐世保鎮守府在籍	波	波
第二十一號海防艦	波	波
舞鶴鎮守府在籍	波	波
第十一號海防艦	波	波
右帝國海防艦籍ヨリ除カル	吳鎮守府在籍	水雷艇
吳鎮守府在籍	水雷艇	鷦
第六號輸送艦	橫須賀鎮守府在籍	第三十號掃海艇
第一百十一號輸送艦	橫須賀鎮守府在籍	第十八號掃海艇
第一百十二號輸送艦	舞鶴鎮守府在籍	第二十二號掃海艇
第一百十三號輸送艦	舞鶴鎮守府在籍	鷦
第一百六十一號輸送艦	吳鎮守府在籍	第三十六號驅潛艇
佐世保鎮守府在籍	吳鎮守府在籍	
第十號輸送艦	吳鎮守府在籍	
右帝國掃海艇籍ヨリ除カル	橫須賀鎮守府在籍	
第四十五號驅潛艇	第四十六號驅潛艇	
第五十三號驅潛艇	第五十三號驅潛艇	
第三十六號驅潛艇	第三十六號驅潛艇	
右帝國驅潛艇籍ヨリ除カル	吳鎮守府在籍	

三 講習員數等	吳鎮守府在籍
四 講習期間	佐世保鎮守府在籍
五 講習科目	第一百五號哨戒艇
六 雜件	右帝國特務艦籍ヨリ除カル
七 講習員ハ講習中横須賀海軍通信學校附トス	舞鶴鎮守府在籍
八 海軍少尉候補生 二十四名	特務艦 鞍 埼
九 第百七號哨戒艇	昭和二十年一月十日
十 海軍大臣	昭和二十年一月十五日
十一 官房教機審第三號	左ノ各號ニ依リ兵科豫備將校等通信術講習ヲ施行ス
十二 本令ハ昭和十九年十二月二十五日ヨリ之ヲ適用ス	官房教機審第二三號
十三 横須賀海軍通信學校	左ノ各號ニ依リ兵科豫備將校等通信術講習ヲ施行ス
十四 講習場所	本令ハ昭和十九年十二月二十五日ヨリ之ヲ適用ス
十五 横須賀海軍通信學校	官房教機審第三號
十六 第二期實務練習實施要領ハ左表ニ依ル	當分ノ間昭和十九年七月以降採用ノ見習尉官及同出身各科中少尉ノ實務練習ハ左ニ依ルノ外見習尉官及同出身各科中少尉實務練習規則（昭和十七年達第三三三號）ニ依リ實施ノコトニ定ム
十七 實務練習實施要領ハ左表ニ依ル	テ艦船乗組通信士トシテ勤務遂行上必要ナル基礎的素養ヲ確 實ニ修得セシムルニアリ
十八 横須賀海軍通信學校	官房教機審第三五號
十九 第二期實務練習實施要領ハ左表ニ依ル	當分ノ間昭和十九年七月以降採用ノ見習尉官及同出身各科中少尉ノ實務練習ハ左ニ依ルノ外見習尉官及同出身各科中少尉實務練習規則（昭和十七年達第三三三號）ニ依リ實施ノコトニ定ム
二十 横須賀海軍通信學校	テ艦船乗組通信士トシテ勤務遂行上必要ナル基礎的素養ヲ確 實ニ修得セシムルニアリ

法 務 科	技術科				主 計 科	科 別	實 習 場 所	實 習 期 間	實 習 要 領	記 事						
	教育系															
	施 本 系	軍 需 系	航 本 系	艦 本 系												
兵東京軍團及各海軍會議、工作處海軍對潛學校	海軍航空隊	海軍電測學校及藤澤	各海軍衣類廠及第一海軍航空部	海軍航空技術廠及各關係廠	海軍工廠及各關係廠	各關係海軍工廠及海軍各	海軍火薬廠及海軍工廠、各	海軍經理學校	海軍軍醫學校	海軍軍醫學校普通科學生準修業セシム又ハ補習學生ニ造就修業セシム						
約三月	約四月					但シ情況依リ二月ニ短縮スルコトヲ得	約三月			(イ) 永久服役、二年現役ニ區分スルコトナク實務練習ヲ實施ス						
習官一部中實務部實修施設規則ノ全部ヲ海軍法務科修士	セシム備指導部員隊トシテノ水測素地兵器與整備部隊	船艦部隊(對空機用磁氣探知器等)電波兵器	主トシテ基本實習ヲ實施シ應用實習ハ適宜實施スルモノトス	見習尉官及同出身各科中少尉實務練習規則別表第二ニ準ス但シ技術科教育系ニ對スルモノハ別ニ教育局長ワシテ通牒セシム	(ロ) 見習尉官及同出身各科中少尉實務練習規則別表第二ニ準ス但シ技術科教育系ニ對スルモノハ別ニ教育局長ワシテ通牒セシム											
			(八) 法務見習尉官ノ東京軍法會議ニ於ケル實習ノ場合ニ在リテハ海軍經理學校附トシテ入校セシメ同校ヨリ派遣修業セシムルモノトス													

二 見習尉官及同出身各科中少尉實務練習規則第五條及第六條
ニ定ムル實習ハ之ヲ行ハズ

ヲ取扱フコトト相成候

○通牒

昭和二十年一月十五日

經豫機密第三號ノ四

關係各支出官、資金前渡官吏殿

日本銀行代理店設置ニ關スル件通知

國庫事務ヲ取扱フ日本銀行代理店ヲ左記ニ設置シ夫々之方事務

海軍省經理局長

○雜款
内令提要別冊(定員關係)追錄第七號(昭和十九年十一月三十日現在)一月十五日發送濟ニ付受領セバ直ニ加除整理ヲ施行シ至急受領票送付アリタシ
(海軍省副官)

靜岡縣榛原郡

中華民國廣西省

北ボルネオ

「金谷町」

「桂林」

「タワオ」

合 同 海 軍 葯 儀 執 行		喪葬管理 者	場 所	記 事
期 日 及 時 刻	大 東 亜 戰 爭 戰 歿 者			
一月二十三日	〇九三〇	故海軍少佐田中啓嗣外諸勇士	舞鶴海軍人事部長	佛式
一月二十四日	一三三〇	故海軍技術大尉吉田靜夫外諸勇士	高雄海軍人事部長	神式

○本日軍極祕海軍公報第六二號(乙配付)發行セリ

配付先
各司令部、各航空隊、各航空廠、同支廠、航空技術廠、同
支廠

○本日海軍公報發行セズ

(官房教機審第一三號別表)

(昭和二十年一月十七日秘海軍公報)

1642-2

科補	本												配當時數 記事								
	兵科豫備將校等通信術(艦船勤務)講習科目			訓育項目			通信法			兵器學論											
體育	勤務	技術	電測	通信	暗號	通信演習	通信戰法	兵器學	理論	通信法	訓練示、諸點檢、諸教練	通信法	無線通信ニ關スル教範操式諸法規								
體能訓練、信號教練	武技、體技、體操	副直將校勤務要項	分隊士勤務要項	送受信技術	電測法一般	通信課報一般	暗號要務	暗號指揮法	暗號要務暗號指揮法	暗號指揮法	通信戰術	通信戰務	方位測定機	通信指揮裝置	有線理論	無線理論	兵器理論	通信要務	通信指揮法	無線通信ニ關スル教範操式諸法規	配當時數八標準ヲ示ス
	10	54	6	6	12	46	18	6	30	18	8	12	3	48	30	12	52	12	82	82	
					82						66										

秘

海軍公報 第四九〇六號

昭和二十年一月十八日(木)

海軍大臣官房

○令 達

内令第三〇號
昭和十八年内令第一八三三號別表中左ノ通改正ス
昭和二十年一月十日

海軍大臣

横須賀防備隊ノ項驅潛特務艇ノ欄「第二號(横)」ノ次ニ「第二十七號(横)」ヲ加フ
佐世保防備隊ノ項驅潛特務艇ノ欄「第九十二號(佐)」ヲ削ル

紀伊防備隊ノ項驅海特務艇ノ欄「第二十一號(阪)」ヲ削ル
第二十五特別根據地隊」ヲ、「第二十五根據地隊」ニ改メ驅潛特務艇ノ欄「第二百十六號(吳)」ヲ削ル

第三十根據地隊ノ項驅潛特務艇ノ欄「第二十七號(横)」ヲ削ル
(内令提要卷三、四八ノ一九頁參照)

内令第三一號

第一百十六號驅潛特務艇

右本籍ヲ吳鎮守府ト定メタル處之ヲ解ク

第九十二號驅潛特務艇

右本籍ヲ佐世保鎮守府ト定メタル處之ヲ解ク

祕海軍公報 第四九〇六號 昭和二十年一月十八日

五九

右本籍ヲ大阪警備府ト定メタル處之ヲ解ク
昭和二十年一月十日

海軍大臣

内令第三二號
昭和十九年内令第四三九號別表中左ノ通改正ス
昭和二十年一月十日

海軍大臣

第二十六魚雷艇隊ノ項中「83」ノ下ニ「84」ヲ、「85」ノ下ニ「86」ヲ加フ
「87」、「89」、「840」、「842」、「843」、「849」、「850」、「851」、「852」、「853」ヲ加フ

第二十七魚雷艇隊ノ項中「81」ノ下ニ「818」ヲ、「85」ノ下ニ「85」ヲ加ヘ
「841」、「844」、「845」、「846」、「847」、「848」、「851」、「852」、「853」ヲ削ル
(内令提要卷三、四八ノ二七頁參照)

内令第三三號

特設監視艇隊編制中左ノ通改定セラル

昭和二十年一月十日

海軍大臣

第二監視艇隊ノ項中「高城丸」ヲ削ル

(内令摘要卷一、一五一頁参照)

同 萬 葵 丸
雄 鳳 丸

内令第三四號
昭和十八年内令第二五六六號別表中左ノ通改正ス

昭和二十年一月十日

海 軍 大 臣

第三南遣艦隊ノ項特設駆潜艇ノ欄「照風丸(舞)」ヲ削ル

(内令摘要卷三、四八ノ二九頁参照)

内令第三五號

汽 船 長 潤 山 丸

右特設砲艦トシ佐世保鎮守府所管ト定メラレタル處之ヲ解カル

ク

同 第 八 桐 丸
國 丸

右特設駆潜艇トシ舞鶴鎮守府所管ト定メタル處之ヲ解ク

ク

同 築 置 山 丸
久 丸

右特設運送船トシ横須賀鎮守府所管ト定メタル處之ヲ解ク

ク

同 卒 婦 丸
久 丸

ヲ解ク

昭和二十年一月十日

海 軍 大 臣

右特設運送船(給油船)トシ吳鎮守府所管ト定メタル處之ヲ解

ク

同 共 葵 丸

右特設運送船(給油船)トシ吳鎮守府所管ト定メタル處之ヲ解

ク

同 第 二 莊 丸

右特設運送船(給油船)トシ吳鎮守府所管ト定メタル處之ヲ解

ク

同 海 軍 大 臣

官房人第二六號

大東亞戰爭中通信連絡杜絕其ノ他特殊事情ニ依リ作戦部隊ニ屬

スル所屬長官又ハ所轄長ニ於テ戰死、戰傷死又ハ戰病死シタル

部下下士官又ハ兵ニ對スル特殊任用進級ノ處理困難ナルモノア

ル場合ハ戰歿ノ情況判明シタル者ニ限リ必要ニ應ジ下士官ノ特
殊任用進級ニ在リテハ在籍鎮守府司令長官又ハ在籍警備府司令
長官、兵ノ特殊進級ニ在リテハ在籍鎮守府又ハ在籍警備府ノ海
軍人事部長夫々當該所屬長官又ハ所轄長ノ名ニ依リ之ヲ處理ス
ルコトヲ得

昭和二十年一月十七日

海軍大臣

官房人機密第二七號

昭和十九年官房人機密第八八〇號中左ノ通改正ス

昭和二十年一月十七日

海軍大臣

(内令提要卷二、四九六ノ七頁參照)

○ 通牒

兵備二機密第二三三號

昭和二十年一月十五日

海軍省兵備局長

關係各廳長殿

舊制度ニ依ル海軍監督工場ノ取扱ニ關スル件

照會

昭和十八年九月十日附兵備二機密第一六一號ニ依ル海軍監督
工場ハ昭和十九年八月海軍監督工場規程ノ制定ニ伴ヒ兵備二第
二七二號（海軍公報第五〇一三號掲載）ニ基キ之ヲ廢止ノゴト
ト定メラレ候處業者指導ノ事情モアリ左記ノ通取扱フコトト相
成候條了知相成度

記

一 舊制度ニ依ル海軍監督工場中新制度ニ依ル監督工場ニ指定
ヲ要スルモノハ證衡ノ上昭和二十年三月末日迄ニ海軍監督工
場規程ニ基キ指定ヲ了スルコト
二 前項ノ證衡ニ當リ舊制度監督工場ハ可成新制度監督工場ト
シテ切換指定ヲ行フモ原則トシテ昭和十九年兵備二機密第二
二三九號（海軍公報第四八七七號掲載）基準ニ依リ選定スル
コト
三 右ニ依リ切換指定ヲセザルコトトナリタル工場（第一項期
間中指定セザル工場ヲ含ム）ノ事業主ニ對シテハ舊制度ニ
リ當該工場ヲ監督工場トシテ指定セル廳長ヨリ當該工場ニ付
「海軍監督工場」ノ名稱ヲ廢シタル旨通告スルト共ニ海軍監督

祕海軍公報 第四九〇六號 昭和二十年一月十八日

六二

(註) 工場タル旨ヲ表示シタル標札ヲ撤去セシムルコト

一 第一項ニ依リ、指定ヲ要スル工場ニ關シテハ二月末日迄

ニ指定進達ノ手續ヲ了スルコト。

二 爾後監督工場指定資料ニハ舊制度ニ依ル指定ノ有無ヲ

明示スルコト。

海人三機密第二號ノ四

昭和二十年一月十二日

海軍省人事局長

關係各所轄長殿

應召員ノ給料補給ニ關スル件照會

海軍省人事局長
海軍省經理局長

厚生省勤勞局長殿

海軍省人事局長
海軍省經理局長

首題ノ件ニ關シ別紙甲號照會ニ對シ乙號ノ通回答アリタルニ付テハ自今各科下士官候補者ノ採用又ハ築城施設關係ノ豫備役技術科下士官ノ任用等令達セラレタル場合ハ有資格者ヲシテ成ル可ク多數志願セシムル様指導方取計相成度追テ該通牒ニ拘ラズ下士官任用後給料ノ補給ヲ停止セラレタル者アル場合ハ其ノ都度在籍鎮守府ノ海軍人事部長宛通知相成度

(甲號)

海人三機密第二號ノ九七

昭和十九年十一月十八日

動發第二五四〇號
昭和十九年十二月十八日

海軍省人事局長

(乙號)

海軍省人事局長

上ノ學力アルモノ又ハ特別ノ技能ヲ有スルモノハ海軍ニ於ケル下士官要員補充ノ必要上銓衡ノ上爲シ得ル限り多數下士官ニ任用ノコトニ取計ハレツツアル處應召前ノ履備主等ヨリ給料ノ補給ヲ受ケツツアル者ハ下士官ニ任用ノ爲補給ヲ取止メラルヲ願慮シ任用不望ノモノ歎カラザル實情ニ有之斯クテハ海軍ニ於ケル下級幹部ノ補充ニ支障ヲ來スコトトナルニ付右ノ事情ヲ御諒承ノ上下士官ニ任用セラレタル場合ニ於テモ從前通補給ヲ繼續スル如ク關係ノ向ニ對シ指導方取計相成度追テ下士官任用者ノ服役ハ補充兵ヨリスルモノハ豫備役ニ第一國氏兵ヨリスルモノハ其ノ儘第二國民兵役ニ服シ身分ハ依然召集中ノ儘ニシテ長期服役ニ非ラズ且任用ニ伴フ俸給ノ増額ハ僅少ナルモノニ有之候

十一月十八日海人三機密第二號ノ九七ヲ以テ御照會相成候標記
ノ件ニ關シテハ別紙ノ通各地方關係官宛通牒致置候條御諒承相
成度

(別紙)
勅發第二五四〇號
昭和十九年十二月十八日

厚生省勤労局長
軍需省總勤員局長

東京都長官
(在リテハ警視監)

軍需監理部長
(在リテハ警視監)

地方鐵山局長
(在リテハ警視監)

應召員ノ給料補給ニ關スル件通牒

ヨリ申越有之候ニ付テハ下士官ニ任用セラレタル場合ニ於テモ
應召手當等ヲ減額又ハ停止セザル様御指導相成度

艦本機密第三號ノ六二八

昭和二十年一月十七日

海軍艦政本部總務部長

横須賀、吳、舞鶴
佐世保、海軍工廠總務部長
内各海軍工作部長
監督長

祕海軍公報
第四九〇六號
昭和二十年一月十八日

應召員ノ給料補給ニ關スル件

大東亞戰爭中水上艦艇ノ電氣信號燈及航海燈
一部廢止ニ關スル件照會

首題ノ件昭和十七年内令兵第四一號ノ規程ニ不拘大東亞戰爭中
水上艦艇ニ對シ左記兵器ノ裝備ハ之ヲ廢止セラレ候但シ既成艦
ニ關シテハ損傷又ハ裝朽等ニ依リ修理ヲ必要トスル場合ハ適宜
之ヲ撤去スルモノト了知相成度

記

曳航燈、增掲燈(第二百燈)、艦首標燈、識別燈(將官燈)

○雜款

十版内令提要錄第一十一號(昭和十九年十一月三十日現在)
一月十五日發送濟ニ付受領セバ直ニ加除整理ヲ施行シ至急受領
票送付相成度

(海軍省副官)

○事務所撤去

事務所名	撤去月日	記事
第五十五號海防廳裝員事務所	一二月三二日	
第七十六號海防廳裝員事務所	一二月三三日	
飄逐艦春月裝員事務所	一二月二八日	
伊號第四百一潛水艦裝員事務所	一月八日	

○旅行順路變更

第二出水海軍航空隊ノ旅行順路ハ一月一日以降左ノ通變更ス

一 所在地

鹿兒島縣出水郡高尾野町

一 順 路

鹿兒島本線高尾野驛ヲ起終點トシ驛隊間三杆同一

町内車馬ノ便ナシ但シ貨物ハ從來通米ノ津驛ニ付

爲念

(第二出水海軍航空隊)

○本日海軍公報發行セズ

秘

海軍公報 第四九〇七號

昭和二十年一月十九日

海軍大臣官房

○令 達

内令第一三九六號

第二百三十二號驅潛特務艇

右本籍ヲ佐世保鎮守府ト定ム

昭和十九年十二月三十一日

海軍大臣

内令第一三九七號

昭和十八年内令第一八三三號別表中左ノ通改正ス

昭和十九年十二月三十一日

海軍大臣

第十六警備隊ノ項驅潛特務艇ノ欄「第二百二十號（吳）」ノ次

=「二百三十二號（佐）」ヲ加フ

（内令提要卷三、四八ノ二九頁参照）

内令第一五號ノ二

（内令提要卷三、四八ノ二九頁参照）

右本籍ヲ大阪警備府ト定ム

昭和二十年一月九日

海軍大臣

秘海軍公報 第四九〇七號

昭和二十年一月十九日

六五

内令第一五號ノ三

第十六警備隊ノ項驅潛特務艇ノ欄「第二百三十二號（佐）」ノ次

=「二百四十號（阪）」ヲ加フ

（内令提要卷三、四八ノ一九頁参照）

内令第三六號

第二百二十九號驅潛特務艇

右本籍ヲ大阪警備府ト定ム

昭和二十年一月十一日

海軍大臣

内令第三七號

昭和十八年内令第一八三三號別表中左ノ通改正ス

昭和二十年一月十一日

海軍大臣

第十六警備隊ノ項驅潛特務艇ノ欄「第二百二十號（吳）」ノ次

=「二百二十九號（阪）」ヲ加フ

（内令提要卷三、四八ノ一九頁参照）

20

1649

内令第三八號

第二百三十九號驅潛特務艇

大東亜戦争ニ於ケル戦地(戰務甲又ハ乙加算ヲ爲サレアル地域)勤務中ノ疾病ニ關シテハ勤務ノ實情ニ鑑ミ左記ノ場合ハ之ヲ公

右本籍ヲ高雄警備府ト定ム

昭和二十年一月十二日

海軍大臣

内令第三九號

昭和十八年内令第一八三三號別表中左ノ通改正ス

昭和二十年一月十二日

海軍大臣

基隆防備隊ノ項驅潛特務艇ノ欄「第二百三十八號(高)」ノ次ニ
「第二百三十九號(高)」ヲ加フ

(内令提要卷三、四八ノ一九頁參照)

○通牒

恩第九號
昭和二十年一月十七日

海軍省人事局長

關係各廳長殿
戰地ニ於ケル公務傷病ノ取扱ニ關スル件通牒

恩給法第四十六條及第四十六條ノ二ニ規定スル公務傷病ニ關シ
テハ公務ノ執行ト傷病トノ間ニ直接因果關係ノ存スルコトヲ認
メラル場合之ニ該當スルモノトニテ裁定セラル次第ナル處

一 結核性疾患ニ關シテハ昭和十五年恩第四一四號ヲ準用スル
コト但シ戰地勤務三箇月以内ニ發病ノモノハ内地出發前發病
シアリタル事實明ナルモノヲ除キ同號第一號ニ依リ處理スル
コト

二 前號以外ノ疾病(自企的又ハ自己ノ不攝生ニ因ルモノヲ除
ク)ニシテ其ノ發病ガ戰地ノ特殊事情(艦船部隊内ノ特殊事
情ヲ含ム以下同ジ)ニ因ルモノト認ムベキトキ
此ノ場合ニハ事實證明書ニ特殊事情ヲ詳記スルコト

三 戰地ニ於ケル負傷シ又ハ疾病ニ罹リタル者戰地ニ於ケル特殊
事情(艦船部隊行動ノ關係上治療ノ時機喪失、氣候不良、治
療又ハ療養施設ノ不備、給食不如意等)ニ因リ後賠症ヲ残シ
又ハ死ニ至レリト認ムベキ状況ヲ詳記シ別ニ軍醫科士官(等)ノ
此ノ場合ニハ事實證明書ニ特殊事情ニ因リ後賠症ヲ残シ又ハ
死ニ至レリト認ムベキ状況ヲ詳記シ別ニ軍醫科士官(等)ノ

意見書ヲ添附スルコト

(備考) 昭和十七年恩第三五號ハ自然消滅トス

(参照)

恩第四一四號

昭和十五年八月二十一日

海軍省人事局長

關係各廳長殿

恩給法上戰地罹病(結核性疾患)者取扱方ニ
關スル件

支那事變ニ關シ戰地勤務中疾病(恩給法施行令第二十二條所定ノ流行病ヲ除ク)ニ罹リタル者ノ恩給法上ノ取扱ニ關シテハ其ノ罹(發)病ガ戰地ニ於ケル特殊勤務ニ起因スルモノト認ムベキ事實顯著ナル場合ニ限り之ヲ公務罹病トシテ取扱ハルル趣旨ナル處結核性疾患ニ付テハ概未左記ノ場合之ヲ公務罹病トシテ取扱フ内閣恩給局ノ意向ナルモ之ガ裁定ニ當リテハ本人ノ勤務ト發病トノ關連ヲ個々ノ書類ニ就キ審査決定セラル關係上證明書類(主トシテ所轄長作成ノ事實證明書)ニハ勤務狀況、健康狀態(戰地ヨリ歸還後發病ノモノニ付テハ歸還後ノ勤務狀況、健康狀態共)及發病時期等爲シ得ル限り詳細ニ記載シ戰地勤務ニ就キタル以後需診ニ至ル迄ノ經過ヲ明瞭ナラシムルコトヲ要スル次第ニ有之候條可然取計相成度

追テ發病、罹病ノ用語使用ニ關シテハ顯著ナル症狀ノ顯現(自覺症ヲ含ム)シタル時期又ハ初診ノ時期ハ之ヲ罹病時期トセ

ズ發病時期トシテ關係書類ヲ一様整備ノコトニ取扱ハレ度恩給局ノ要望ニ有之候

記

一 戰地勤務中發病ノモノ但シ該勤務期間概不三箇月以内ニ發病シタル者ニ在リテハ戰地ニ向ケ内地出發前ノ出動準備ノ勤務又ハ出發後ノ勤務狀況顯著ナルモノニ限ル

二 内地ニ於テ繁劇ナル出動準備ノ勤務ニ服シ戰地ニ向ケ内地ヲ離レタル後其ノ途中ニ於テ發病ノモノ又ハ戰地ヨリ歸還ノ途中ニ於テ發病ノモノ

三 戰地ニ於テ若ハ出征又ハ歸還ノ途中公務ノ爲負傷シ又ハ疾病ニ罹リ療養中(内地ニ歸還シ療養中ノモノヲ含ム)之ガ爲身體衰弱ニ因リ發病ノモノ

四 内地歸還後需診ノ者ニシテ其ノ症狀戰地勤務中既ニ發病シアリタリト認メラルモノ但シ本號ノ場合ニ在リテハ第一號但書ヲ準用ス

五 戰地ニ於テ劇務ニ服スルコト三箇月以上ニ及ビタル者内地歸還後引續キ繁劇ナル勤務ニ服シ又ハ不健康ナル勤務ニ從事シ歸還後六箇月以内ニ發病シ直ニ需診シタルモノ

六 戰地ニ於テ劇務ニ服スルコト一年以上ニ及ビタル者内地歸還後六箇月以内ニ他ニ原因ノ認ムベキモノナクシテ發病シ直ニ需診シタルモノ(此ノ場合ニハ本人ト日常密接ナル關係ヲ有スル者ノ中ニ結核性疾患者ノ有無ニ關シ詳細ナル調書添附ノコト)

軍需二機密第七九號

昭和二十年一月十六日

海軍省軍需局長

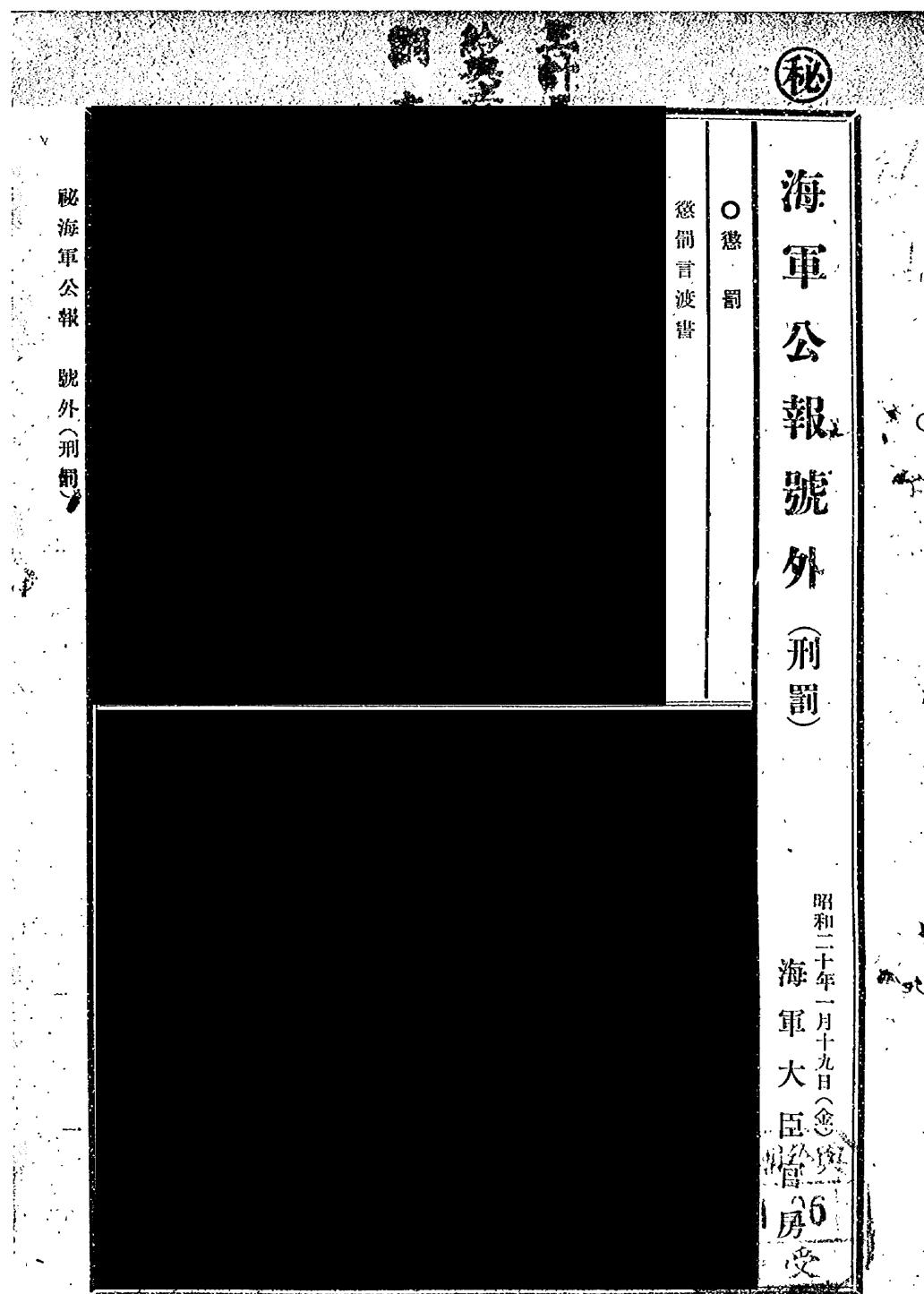
○事務所名	設置場所	月事務開始日	電話	記事
第三千五十五號營	橫濱市戶塚區中町横濱市西宮七一日本海	一月〇日		
艦載要員事務所	須賀市内施設部教導課	五二四三番		
第六十五號海防	富山市西宮七一日本海	一月〇日		
艦載裝備員事務所	船渠工業株式會社内	一月〇日		
第八十七號海防	七日日本鋼管株式會社内	一月〇日		
艦載裝備員事務所	見造船所内	一月〇日		
第九十五號海防	七日日本鋼管株式會社内	一月〇日		
艦載裝備員事務所	見造船所内	一月〇日		
水伊號第二百三十三號	横濱市鶴見區辨天町一	一月〇日		
吳海軍工廠内	横濱市鶴見區辨天町一	一月〇日		
正誤	一月〇日			
○正誤	一月〇日			
一月十六日附祕海軍公報令達欄内令第二〇號中「申良海軍航空基地」ハ「申良航空基地」ノ誤	三七五九番			

1652

品種	數	單價
木炭	三〇〇	〇〇〇
半成コーカス	一六〇	〇〇〇
カーバイド	二六〇	〇〇〇
航空一二〇號油	五七〇	〇〇〇
カストル油	七五〇	〇〇〇
白絞油	七〇〇	〇〇〇
一號内部礦油	五七〇	〇〇〇
一號外部礦油	六三〇	〇〇〇
一號外部礦油	六八〇	〇〇〇
二號外部礦油	五一〇	〇〇〇
一號ベンゾール	三四〇	〇〇〇
二號ベンゾール	三四〇	〇〇〇
三號外部礦油	同	〇〇〇
四號外部礦油	同	〇〇〇

○本日海軍公報發行セズ

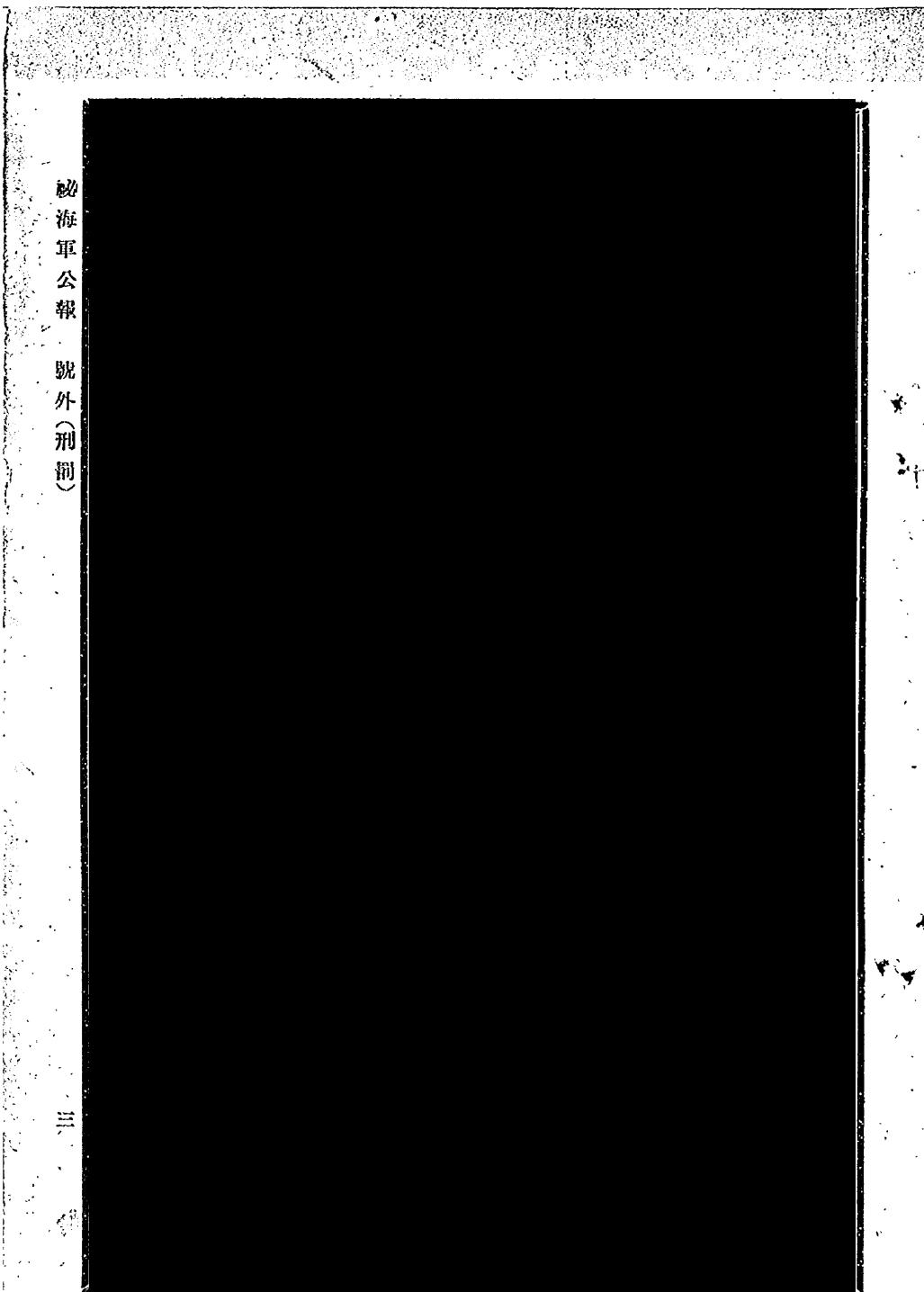
關係各司令部、橫須賀、吳、佐世保、舞鶴各海軍人事部、吳海軍工廠、關係各學校



1653

秘海軍公報 號外（刑罰）

1654

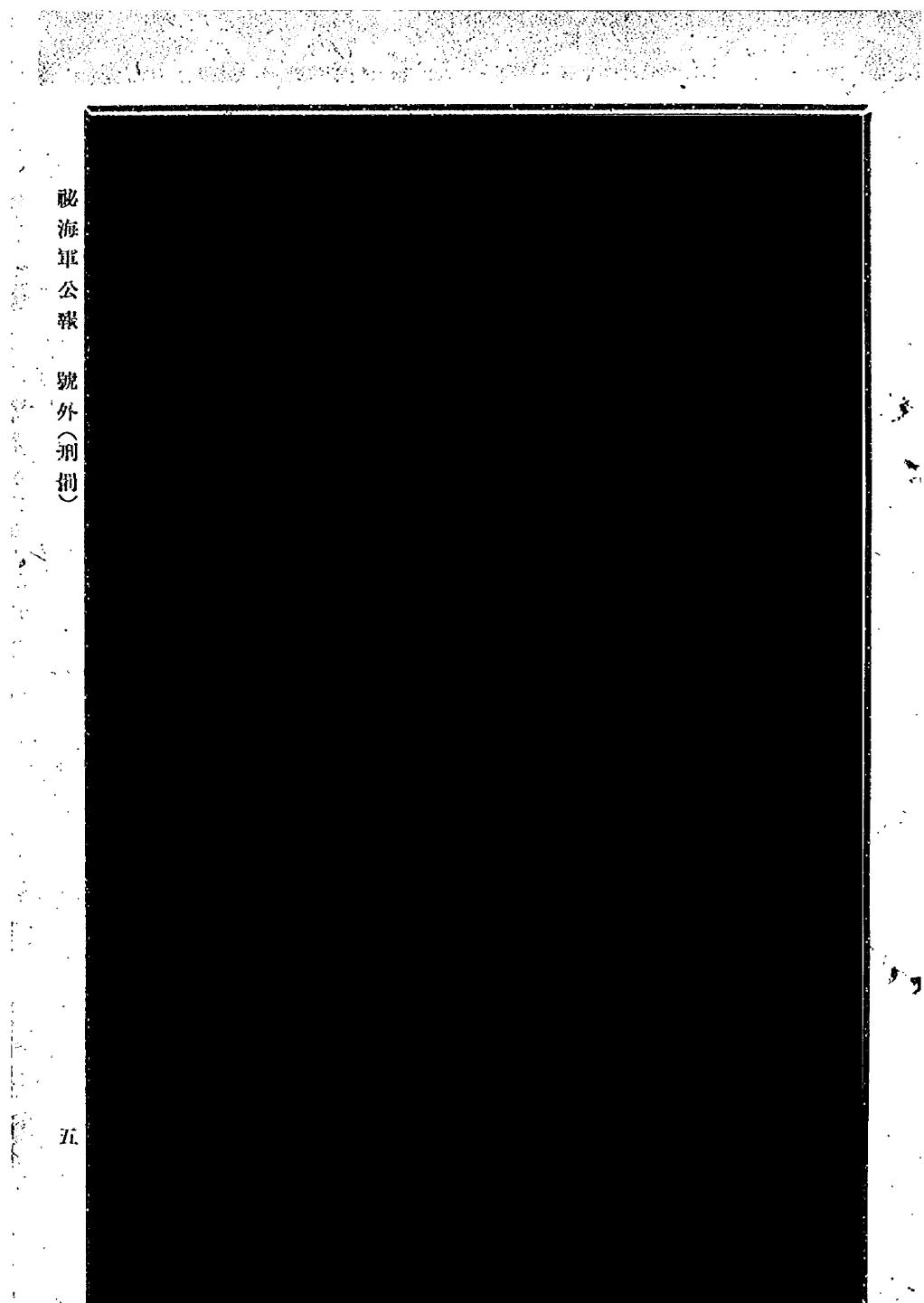


1655

祕海軍公報 號外(刑罰)

四

1656



1657

秘海軍公報 號外(刑罰)

六

1658

秘海軍公報 號外(刑罰)

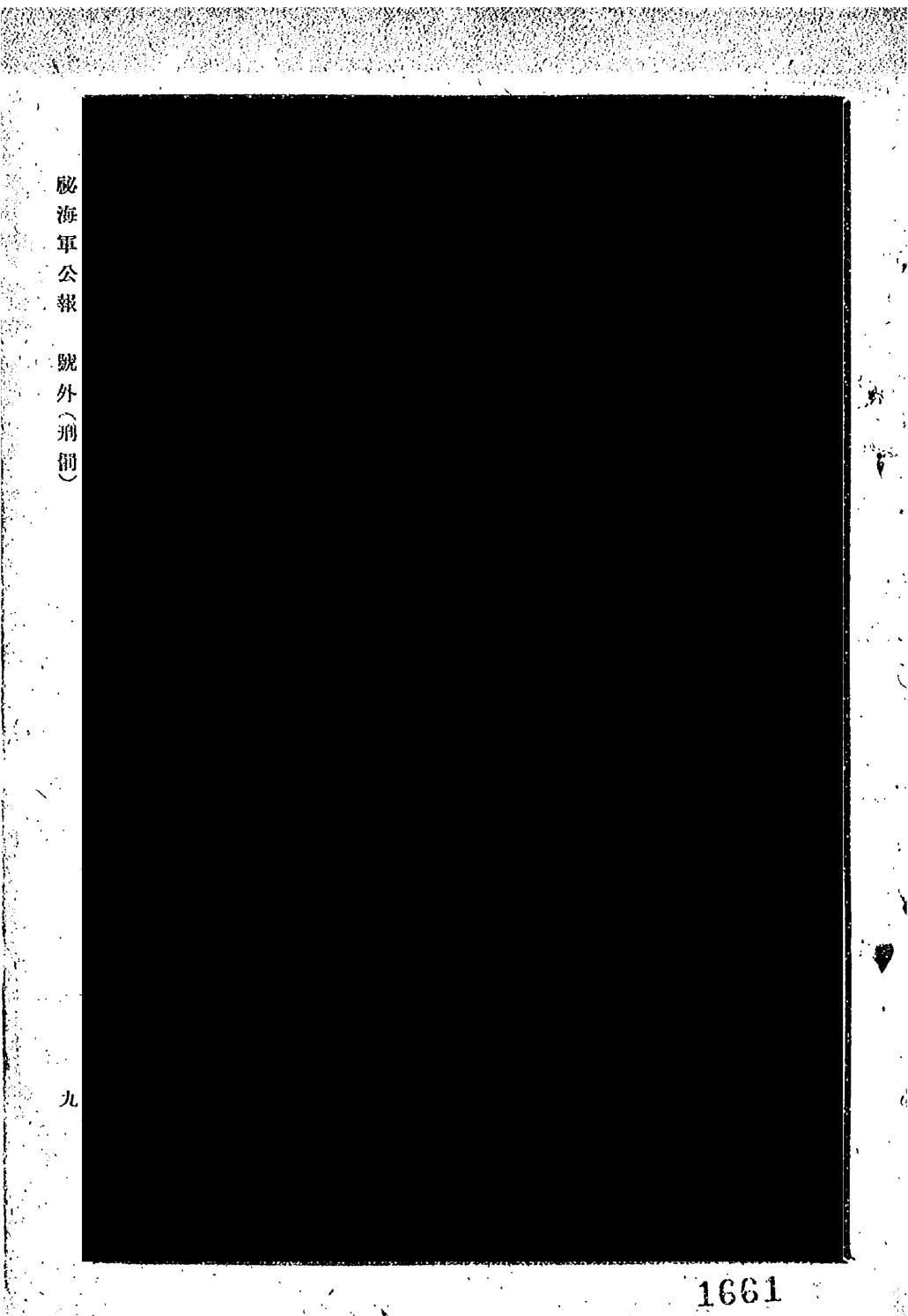
七

1659

秘海軍公報 號外(刑罰)

八

1660



秘

海軍公報

第四九〇八號

昭和二十年一月二十日(土)

海軍大臣官房

内令第四一號

第一百六號海防艦

右本籍ヲ吳鎮守府ト定メラル

吳鎮守府在籍

右警備海防艦ト定メラル

第一百六號海防艦

昭和二十年一月十四日

海軍大臣

内令第四二號

輸送隊編制中左ノ通改定セラル

昭和二十年一月十五日

海軍大臣

内令第四〇號

驅逐艦椎

右本籍ヲ舞鶴鎮守府ト定メラル

第五十七號海防艦

内令第四三號

右本籍ヲ吳鎮守府ト定ム

昭和二十年一月十五日

海軍大臣

右警備海防艦ト定メラル

昭和二十年一月十三日

海軍大臣

秘海軍公報 第四九〇八號

昭和二十年一月二十日

六九

内令第四四號
昭和十八年内令第一八三三號別表中左ノ通改正ス

昭和二十年一月十五日

海軍大臣

横須賀防備隊ノ項驅潛特務艇ノ欄「第二百三十六號(横)」ノ次ニ
「第二百三十七號(横)」ヲ加フ

(内令提要卷三、四八ノ一九頁参照)

内令第四五號
特設海軍航路部等ノ所管、所屬、名稱及所在地ノ件中左ノ通改
正セラル

昭和二十年一月十五日

海軍大臣

吳鎮守府所管第一南遣艦隊ノ部中第百二海軍工作部ノ項ノ次ニ
佐世保鎮守府所管第一南遣艦隊ノ部中第百一海軍工作部ノ項ノ
次ニ左ノ如ク加フ

第百一海軍航空廠 昭南島
第百二海軍航空廠 スラバヤ

(内令提要卷一、三八ノ三七頁参照)

内令第四六號
昭和十五年内令第六四六號特設海軍工作部等ノ所掌區分ヲ定

ムルノ件中左ノ通改正ス
昭和二十年一月十五日

海軍大臣

海軍大臣

海軍大臣

第一百四海軍航空廠
第一百一海軍航空廠
第一百二海軍航空廠
第一百四海軍航空廠

第一百一海軍航空廠
第一百二海軍航空廠
第一百三海軍航空廠
第一百四海軍航空廠

南方面海軍航空廠第一支廠及南方面海軍航空廠第三支廠ノ
各項ヲ削ル

南方面海軍航空廠マカツル分工場乃至南方面海軍航空廠
ラングール分工場ノ各項中「南方面」ヲ「第二百二」ニ、南西
方面海軍航空廠ベナン分工場乃至南方面海軍航空廠コタラヂ
ヤ分工場ノ各項中「南方面」ヲ「第二百一」ニ改ム

(内令提要卷一、三八ノ四一頁参照)

内令第四七號

聯合艦隊ニ參謀副長ヲ置ク等ノ件中左ノ通改正セラル
昭和二十年一月十五日

海軍大臣

「聯合艦隊ニハ艦隊令第五條ノ職員ノ外」ヲ「聯合艦隊及艦隊
並ニ警備府及商港警備府ニハ艦隊令第五條第一項、警備府令第
二十二條第一項又ハ商港警備府令第十七條第一項ノ職員ノ外」
ニ、「一人」ヲ「二人以内」ニ改ム

(内令提要卷一、一六七頁参照)

官房人第三一號

昭和十九年海軍省令第七十一號並ニ同年達第三八四號施行ノ際
左記上欄ノ命課ヲ有シ特ニ群令ヲ發セラレザリシ者ハ監理官監
理官附ニ在リテハ昭和十九年十二月十八日、監査官監査官附ニ
在リテハ同年十二月二十一日別ニ群令ヲ用ヒズシテ各下欄ノ通
變更セラレタルモノトス

昭和二十年一月十八日

海軍大臣

記

長崎、八幡監理官監理官附
監査官監理官附

浦賀監理官監理官附
監査官監理官附

神戸監理官監理官附
監査官監理官附

岡山監理官監理官附
監査官監理官附

○通牒

官房人機密第三二號

昭和二十年一月十八日

海軍省副官

秘海軍公報 第四九〇八號 昭和二十年一月二十日

航空機搭乗シテ航空勤務ニ從事中又ハ潜水艦ニ在リテ潜航勤務中避々ベカラザル變故ニ因リ殉職シタル者ニ對シテハ從來

天皇兩陛下ヨリ祭粢料下賜在ラセラルルヲ例トセラアルモ最近之等殉職者ノ原隊ニ於ケル海軍葬儀ノ際悉ニ祭粢料ヲ立替遺族ニ交付シ送金ヲ關係願ニ請求シタル事例聞及ビ候處洵ニ恐懼ニ堪ヘズ海軍葬儀時ニ於ケル關係員ノ心情ハ諒トセラルモ遺族ニ對シ要スレバ「祭粢料下賜在ラセラルル例ナルニ付何レ御沙汰アルベシ」等ノ旨ヲ申聽カシムル程度ニ止メ其レ以上ノ處置ニ出デザル様嚴ニ留意相成度

豫機密第三號ノ五

昭和二十年一月十七日

海軍省經理局長

關係各廳長殿

海軍各部ヨリ陸軍部隊ニ資金補充等ヲ要スル

場合ノ經理事務ニ關スル件通牒
作戰地ニ於テ海軍指揮官ノ指揮下ニ在ル陸軍部隊等ニ對シ艦隊經費支辨ノ各部ヨリ資金又ハ物品ノ補充又ハ補給ヲ要スル場合ノ經理事務ハ左記ニ依リ處理スル義ト了知相成度

記

一 金錢經理

(イ) 陸軍部隊ノ金錢給與及同經理事務ハ陸軍關係諸法規ノ定ムル所ニ依リ陸軍部隊ニ於テ之ヲ掌理ス
(ロ) 陸軍部隊所要資金ノ補充ヲ要スル場合ハ請求ニ依リ海軍

、祕海軍公報 第四九〇八號

昭和二十年一月二十日

○ 雜 款

○第八十三期普通科經理術練習生（入校期一月二十八日）入校者參考
一 當分校位置
一 濱松市高林町興誠航空工業學校内（驛ヨリ北方三糸餘）

(ハ) 二於テ之ヲ準備ノ上交付ス
現地海軍各部ニ於テ陸軍部隊ヨリ資金交付ノ請求アリタル場合ハ之ヲ準備交付スルト共ニ海軍省經理局主任出納官吏宛同額分割交付スルモノトシテ左例ニ依リ之ヲ電報スルノ外所要手續ヲ採リ同主任出納官吏ハ陸軍省ヨリ代り金ヲ受け之ヲ整理スルモノトス

(例) 陸軍〇〇部隊宛資金交付〇月〇日附力（〇〇）〇〇〇〇
○圓分割交付ス

二 物品經理

(イ) 陸軍部隊ニ對スル補給ハ別ニ定ムル所ニ據ル
(ロ) 陸軍部隊ノ物品經理事務ハ特ニ定ムルモノノ外陸軍關係諸法規ノ定ムル所ニ依リ陸軍部隊ニ於テ之ヲ掌理ス
(ハ) 陸軍部隊ニ對スル補給物品中其ノ補給ヲ海軍ニ於テ擔任スル物品ニ就テハ海軍各部ニ管理スル間其ノ經理事務ハ規ノ定ムル所ニ依リ之ヲ掌理ス

(イ) 遠洲電鐵（濱松驛前旭町驛ヨリ乗車助信驛下車）
市營バス（高林町行（驛前ヨリ乗車日本赤十字前終點下車）
(ハ) 右 同 廣澤鷹江行（駒前ヨリ乗車上池用町下車）
以上何レモ多人數衣著携行乘車困難ニ付寧ロ徒步ノ便トス
三 休憩
濱松驛前左ヘ約百米鍛冶町小松屋商店旅館及其ノ北方着町元佐藤料理店ハ本校集會所ナルニ付休憩差支ナシ
四 案内
驛着後本校（電話一七三三）ニ通知セバ道順荷物運搬等ニツキ指示ス又多人數驛着ノ場各時刻ヲ豫報セバ駢ヘ出迎者ヲ派遣ス

（海軍經理學校濱松分校）

○本日海軍公報發行セズ

航本機密第二五七號
海軍造船機造兵主要材料試驗検査規則（航空機之部（假規格））（祕之部）中左ノ通改正ス
昭和二十年一月十八日

假規祕 特殊鋼板中別紙ノ通改ム
別紙ハ所要ノ向ニノミ之ヲ配付ス

海軍航空本部長

秘

海軍公報 第四九〇九號

昭和二十年一月二十一日(月)

接
海軍大臣官憲
29
受

○令 達

達第一〇號

海軍工務規則中左ノ通改正ス

昭和二十年一月十九日

海軍大臣

第五條第一項造修部ノ部中「作業係」ノ下ニ「接係(造船部ノミ)」ヲ加フ

(參照) 海軍諸例則卷三、五六四ノ一頁
海軍會計法規類卷三、一頁

内令第四八號

昭和十八年内令第二〇五五號海軍練習航空隊ノ所掌事項ノ件中

左ノ通改正ス

昭和二十年一月十五日

海軍大臣

霞ヶ浦海軍航空隊ノ部第二號中「豫備學生及」ヲ「豫備學生、豫備生徒及」ニ改メ「但シ豫備學生」ノ下ニ「及豫備生徒」ヲ加フ
山海軍航空隊、」ヲ加ヘ同部及鹿島海軍航空隊等ノ部中「豫備

祕海軍公報 第四九〇九號 昭和二十年一月二十一日

七三

學生及」ヲ「豫備學生、豫備生徒及」ニ、「及豫備學生」ヲ「豫備學生及豫備生徒」ニ改ム

豊橋海軍航空隊等ノ部中第一號及第二號ヲ左ノ如ク改ム
陸上攻撃機ノ操縦ヲ專修スル飛行學生、飛行術練習生、豫備

學生及豫備生徒ニ對スル實用機教程

大井海軍航空隊等ノ部中「及豫備學生」ヲ「豫備學生及豫備
生徒」ニ改メ「但シ豫備學生」ノ下ニ「及豫備生徒」ヲ加ヘ同
部ノ次ニ左ノ如ク加フ

相模野海軍航空隊

飛行機整備學生、特修科學生及高等科飛行機整備術練習生

ノ教育

第二相模野海軍航空隊

高等科及普通科飛行機整備術練習生並ニ飛行機整備術ヲ專
修スル豫備學生、豫備生徒及整備科豫備練習生ノ教育

藤澤海軍航空隊ノ部中「及整備科豫備學生」ヲ「豫備生徒及
整備科豫備練習生」ニ改ム

相模野海軍航空隊等ノ部中「相模野海軍航空隊、第二相模野海
軍航空隊、」及「第二那山海軍航空隊、」ヲ削ル
筑波海軍航空隊等ノ部中「神町海軍航空隊、」ノ下ニ「第二那
洲ノ崎海軍航空隊ノ部中「豫備學生」ノ下ニ「及豫備生徒」ヲ
加フ

土浦海軍航空隊等ノ部第二號中「豫備學生（飛行）」ノ下ニ「
豫備生徒（飛行）」ヲ加フ

（内令提要卷一、三〇ノ四三頁参照）

官房機密第五二號
昭和十六年官房機密第一二六三九號中左ノ通改正ス
昭和二十年一月十九日

海軍大臣

官房機密第三五號
昭和十九年官房人機密第一九三二號中入隊期日「昭和二十年二
月一日」ヲ「昭和二十年三月五日」ニ改ム

昭和二十年一月二十日

海軍大臣

（昭和十九年十二月十三日本欄参照）

○通牒

軍需機密第一號
昭和二十年一月十八日

關係各廳長殿

海軍省軍需局長

關係各廳長殿

海軍省軍需局長

第一項中「軍人軍屬」ノ下ニ「並ニ配屬ヲ命ゼラレタル豫備員
候補者」ヲ、「俸給又ハ給料ノ十分ノ五ノ増俸」ノ下ニ「豫
備員候補者ニ在リテハ豫備員候補者手當（海軍給與令第四十四
條ノ二ノ規定ニ依リ加給セラルル分及同令第九表備考ノ規定ニ
依リ増給セラルル分ヲ除ク以下之ニ同ジ）ノ十分ノ五ノ増給」
ヲ、「俸給又ハ給料ノ十分ノ四」ノ下ニ「豫備員候補者ニハ豫
備員候補者手當ノ十分ノ四」ヲ加フ
同項第一號中「乙種豫科練習生ヲ含ム」ヲ「乙種豫科練習生ヲ
含ミ基礎教育中ノ補充兵及國民兵ヲ含マズ」ニ改ム

附則
本令ハ昭和二十年一月一日以後ノ給與ニ付之ヲ適用ス

（參照）
（昭和十六年官房機密第一二六三九號ハ戰地ニ在ラザルモ特
別ノ命令ニ依リ對敵ノ行動ヲ取ル者ノ給與ニ關スル件ナリ
海軍機密會計法規類集一九頁）

一 再生可能乾電池ノ種類
(イ) 賽藏或ハ輸送期間長キ為實用不能トナリタルモノ
(ロ) 製造後短期間ノ使用ニ依リ實用不能トナリタルモノ

但シ何レモ亞鉛罐ノ腐蝕膨脹或ハ漏液等外觀的ニ異狀

ナキモノタルヲ要ス

二 再生法

上面ビツチ部ニ加熱火箸ヲ以テ徑約四粋ノ孔ニ箇ヲ穿孔シ其ノ一孔ヨリ電解液（塩化アンモニウム飽和液）最良トスルモノキ場合ハ海水又ハ清水ヲ注入満水シ約一時間放置後三〇

○ミリアンペア程度ノ電流ヲ以テ約四時間充電ヲ行ヒ充電完了後ハ「ビツチ」又ハ蠟ヲ以テ孔ヲ封ス

直流電源二〇〇Vノ場合直列充電シ得ベキ乾電池數左ノ通

乾電池數 摧抗電球

五個以下 二〇W

五~一〇個 三〇W

一〇~二〇個 四〇W

二〇~三〇個 六〇W

三〇~四〇個 八〇W

備考 再生乾電池ハ長期保存不可能ナルヲ以テ可及的速ニ使

用スルヲ可トス

○ 雜 款

○ 司令潜水艦變更

第六潛水隊司令ハ一月十五日司令潛水艦ヲ呂號第五十七潛水艦ニ變更セリ

祕海軍公報 第四九〇九號 昭和二十年一月二十一日

七五

事務所名	設置場所	月務開始日	電話記事
舞鶴鎮守府附屬銀行 第三千二百十一設營	京都府與謝郡栗田村（舊） （舞鶴海軍航空隊）内	三月三日	
佐世保海軍施設部内			
海防艦自斗艦裝員事務所 第百四海防艦裝員事務所	大飯市此花區櫻島町日立 造船株式會社櫻島造船所	一月六日	
長崎市篠ノ浦町海軍監督 官事務所内	長崎市篠ノ浦町海軍監督	一月二十日	
○事務所撤去			
事務所名	撤去月日	記事	
第二百十五號海防艦裝員事務所	一二月三〇日		
伊號第四百二潛水艦裝員事務所	一月八日		
特務艦大演艦裝員事務所	一月一〇日		
第六號海防艦裝員事務所	一月十四日		
○電話架設 當隊ニ左ノ通市内電話架設セリ			
電話高知 六九二番 (浦戸海軍航空隊)			
○轉勤者旅行順路ニ關スル件 當隊ヘノ轉勤者ニシテ間々非島蘭印經山ニテ赴任セル者アリ從			

秘海軍公報 第四九〇九號 昭和二十年一月二十一日

七六

テ旅行ニ長日月ヲ費シニ、三月ヲ經ザレバ着任セズ隊務遂行上ニモ支障極メテ大ナルニ付自今當隊ヘノ轉勤者ハ臺灣、海南島、昭南經由ニテ赴任セシメラレ度、

(第十三海軍航空隊)

大東亞戰爭戰歿者故海軍大佐三原 實外諸勇士ノ合同葬儀ヲ來一月三十日〇九三〇海仁會吳集會所櫻松館ニ於テ佛式ニ依リ執行ス

1669

秘

海軍公報 第四九二一號

昭和二十年一月二十三日(火)

海軍大臣官房

○令達

官房人機密第三六號

特技兵臨時講習及人事取扱規則中左ノ通改正ス

昭和二十年一月二十一日

海軍大臣

第十條中「百分ノ八十以内」ノ下ニ「又ハ講習修業成績総合得點百分ノ六十以上ニシテ各科目ノ得點百分ノ五十以上」ヲ加フ

本令ハ昭和十九年十月一日より之ヲ適用ス

(昭和十九年九月二十九日本欄参照)

官房人機密第三七號
特修兵養成ニ關スル特例中左ノ通改正ス

昭和二十年一月二十一日

海軍大臣

第十二條ノ二 特修科飛行術竝ニ特修科及高等科ノ潛航術、兵器整備術又ハ飛行機整備術練習生ノ選拔、採用等ニ關シテハ
特務士官以下配員特例第二條ノ規定ヲ準用スノトナリ
前項ニ該當スル者ノ取扱ニ關シ在籍鎮守府司令長官ニ報告ス
ベキ事項ハ海軍省人事局長ニ之ヲ通報スルモノトス

祕海軍公報 第四九二一號 昭和二十年一月二十三日

附則

本令ハ昭和十九年十月一日ヨリ之ヲ適用ス

官房需機密第二〇號

昭和十九年九月二十九日本欄参照

昭和二十年一月二十二日

海軍大臣

第三號各病院ニ於ケル準備標章表中

横須賀二〇〇ヲ 横須賀六〇〇ヲ
三改ム

(參照) (昭和十九年官房需機密第二七一號ハ入院患者ニ作業ヲ課ス
ル場合被服物品貸與ノ件ナリ)(昭和十九年八月二日祕海軍
公報)

○通牒

教育第一四號
昭和二十年一月二十二日

海軍省軍務局長

關係各廳長殿

八一

1670

海軍生徒採用豫定者健康診斷ニ關スル件申進

身體檢查規則
海軍志願者身體檢查規則、海軍身體檢查手續
戰時特例
一八、七官房督第93號
一八、六官房機務第二號及第三號
一九、八官房醫第一三八號
一九、九官房醫第一五七號

昭和十九年四月實施セラレタル身體檢查合格者ニシテ同二十年四月入校豫定者中其ノ後罹病(負傷)、其ノ他ノ原因ニ依リ體力低下シ來ル四月ノ海軍兵學校及海軍經理學校入校時身體檢查不合格ト爲ル處アル者ニ對シ此ノ際健康診斷ヲ實施シ明ニ不合格ト爲ル見込ノ者ハ成ルベク速ニ方向轉換セシムルヲ可ト認メ

ラルヲ以テ別紙ノ通照會ノコト相成候條本診斷ヲ願出ル者ニ對シテハ左記ニ依リ部下軍醫科士官ヲシテ之ヲ實施セシメラ

ル様取計相成度

記

需診者ハ總テ去年四月實施セラレタル身體檢查ニ合格セル者ナルヲ以テ主シテ本人ノ不安心ト信ズル點ヲ重點的ニ診察シ明ニ入校時不合格ト爲ルノ處アル者ニ對シテハ其ノ旨(症狀ノ程度ガ合格、不合格ノ見込ヲ判定シ難キ者ニ對シテモ同様)説明(不合格ノ判定中渡ニ非ズ)スルト共ニ海軍軍醫科士官醫務取扱規程附錄第二十二様式ノ一ニ準ズル診斷書(特ニ症狀ヲ詳記シ氏名ノ右上ニ住所及受驗番號ヲ記註ス)ヲ作製シ所見(入校時身體檢查合格、不合格ノ見込ミ)ヲ附シ速ニ入校豫定學校軍醫長ニ送付スルモノトス但シ海軍兵學校及海軍經理學校ニ於テ實施スル者ニ對スル右ノ診斷書ハ當該學校入校豫定者ニ付テハ之ヲ省略スルコトヲ得

(紙別)
教試第三號

昭和二十年一月二十二日

海軍生徒採用試驗委員長

關係各中等學校長殿

海軍生徒採用豫定者健康診斷ニ關スル件照會

昭和二十年四月入校豫定ノ海軍兵學校(舊海軍機關學校ヲ含ム)、海軍經理學校生徒採用豫定者中體力低下ノ爲入校時ノ身體檢查ニ對シ不安ノ念ヲ生ズルニ至ル者相當有之ヤニ存ゼラ候處右ニ關シテハ勤勞動員其ノ他ノ影響ヲ充分考慮審議セラル豫定ニシテハ胸部疾患其ノ他特ニ服務ニ支障アルガ如キモノナラザル限り心配ノ要無之候條可然示達方御取計ラヒヲ得度追テ自己ノ健康ニ懸念アリテ入校時ノ身體檢查ニ大ナル不安アル者ニ對シテハ此ノ際健康診斷ヲ實施シ明カニ入校時不合格ナル見込ノ者ニ對シテハ高等、專門學校入學ノ機ヲ逸セシメザル様致度候條左記ニ依リ希望者ニ對シ健康診斷ニ應ズルコトト相成候

記

一期	日自昭和二十年二月十二日至同二月末日	二場所	横濱市戸塚区小菅ヶ谷町 第一海軍燃料廠構内海軍省大船分室
二場所	最寄	海軍病院、海兵團、海軍航空隊、海軍警備隊、海軍根據地隊、海軍醫學校、海軍兵學校（各分校ヲ含ム） 海軍經理學校	
三健康診斷受診上ノ注意	(イ)希望者ハ可成學校毎ニ繼マリ受診ヲ乞フコト 但シ多人數ノ場合ハ可成希望スル検査場ニ豫メ健康診斷ヲ依賴シ出頭日ノ指示ヲ受クルコト尙東京ニ於テハ海軍省教育局ヨリ出頭期日及場所ヲ指示ノ豫定	三移轉關係者	軍需局資材班 軍需局整備班
○雜款	(ロ)受診者ハ各自採用豫定通知書ヲ持參スルコト (ハ)自己ノ不安ト感ジ居ル箇所ハ特ニ申告シ綿密ニ検査ヲ依頼スルコト (ニ)多少ニテモ「生徒生活ニ懸念アル」旨診断セラレタル者ハ入校豫定學校ニ照會其ノ他ニ關シ留意相成度	○本日軍械祕海軍公報第六四號（甲配付）發行セリ ○本日海軍公報發行セズ	軍需局特藥部（機材班ノ一部） (海軍省軍需局)
一期	日昭和十九年十二月十八日	記	

海軍公報 第四九二二號

昭和二十年一月二十四日(水)

海軍大臣官房

○令達

官房機密第二一號

軍需支部及軍需支庫ニ於テ供給スル兵器、艦營需品、燃料、被服及糧食ノ供給範圍當分ノ間左ノ通定ム

昭和二十年一月二十三日

海軍大臣

臨時所要ノ燃料及日常須要ノ艦營需品

附則

昭和十九年官房機密第二七二號ハ之ヲ廢止ス
(參照) (昭和十九年官房機密第三七二號ハ軍需支庫及軍需支庫ニ
於ケル艦營需品、燃料等供給範圍ノ件ナリ)

○通牒

官房機密第一三四號ノ二二

昭和二十年一月十五日

海軍省副官

關係各廳長殿

暗號圖書配給及處分ニ關スル件申進

首題ノ件ニ關シテハ別ニ特令セラルモノヲ除キ別冊所載圖書
現狀表第四四號ニ依リ處理相成度
(別冊ハ所要ノ向ニノミ之ヲ配付ス)

官房機密第三三號

昭和二十年一月二十二日

海軍省副官

關係各廳長殿

下士官及兵外委官職區別章ニ關スル件通牒

秘海軍公報 第四九二二號

昭和二十年一月二十四日

八五

1673

祕海軍公報 第四九二二號 昭和二十年一月二十四日

八六

下士官及兵ノ外套ハ貸與ノコトニ改メラレ一着ヲ二人以上ニテ
供用ノ場合モアリテ事情已ムヲ得ザルモノハ作業、訓練等ノ際
着用スルトキニ限り官職區別章ハ之ヲ附着セザルコトヲ得ルコ
トニ定メラレ候

經艦機續第四號ノ二〇〇

昭和二十年一月十七日

海軍省經理局長

各艦隊經費分任出納官吏殿

艦隊經費支拂高調ニ關スル件通牒

昭和十九年六月二十八日官房經第五九五號ニ依リ艦隊經費前渡
資金現況報告書ハ三月分ヲ取纏メ調製提出シ得ルコトニ定メラ
レ候處豫算ノ運用量ニ整理上必要ニ付首題ノ件本年一月以降左
記様式ニ依リ翌月月頭速ニ本職竝ニ所管海軍經理部長宛報告相
成度

(様式)

昭和一年 月分艦隊經費支拂高調(所轄)

本月分支拂高	圓	錢
前月迄ノ累計	圓	錢
合計	圓	錢
現豫算殘高	圓	錢

○ 雜款

○訂正
一月十二日附祕海軍公報雜款欄合同海軍葬儀執行場所中「仙台
市縣公會堂」トアルヲ「福島市縣公會堂」ニ改ム
○削除
一月十八日附祕海軍公報第四九〇六號令達欄内令第三〇號中八
行目及同第三十一號中下段一、二行目ヲ削除ス
○本日軍艦祕海軍公報第六五號(乙配付)發行セリ
配付先
關係各司令部、各海軍航空隊、同分遣隊、各海軍(特設)航
空廠、同支廠、海軍航空技術廠、同支廠、沿津海軍工廠、
軍需省航空兵器總局、第一、第十一、第二十一、第六十一
海軍航空廠補給部、關係各艦船

1674

秘

海軍公報 第四九一三號

昭和二十年一月二十五日(木)

海軍大臣官房

○令達

達第一六號

海軍兵進級規則中左ノ通改正ス
昭和二十年一月二十四日

第四條ノ二第一項第二號中「一年六月」ヲ「一年」ニ改ム

附則

海軍大臣

第二十六號	同	(九、八廻)	大湊海軍施設部	同	イノ一七
第二六〇號	同	(九、五廻)	大湊海兵團	同	第十丸
第二六七號	同	(八、九廻)	大湊海軍港務部	同	第三十九丸
第二六七號	同	(八、八廻)	女川防備隊	同	第三十二丸
第二六七號	同	(八、六廻)	大湊海軍軍需部	同	第三十九丸
第二六七號	同	(七、八廻)	大湊海軍工作部	同	第三十九丸
第二六七號	同	(七、四廻)	三澤海軍航空隊	同	第六十五丸
第二六七號	同	(七、二廻)	官房軍第三七號	同	三澤丸

1675

官房軍第三七號
雜役船ノ船種ヲ左ノ通變更ス
昭和二十年一月二十三日

海軍大臣

公稱番號	舊船種	新船種	所屬	定數別	元所有者
第三九號	(美陸運船)	(交通船)	研究技術所	定數	安良里村 高木清夫
					静岡縣賀茂郡 高木村
					高木清夫

昭和二十年一月二十四日

海軍大臣

實務練習場所 濱名海兵團
實務練習期間 約四月

○通牒

艦本機密第三號ノ六九七
昭和二十年一月二十三日

海軍船政本部總務部長

横須賀、吳、佐世保、舞鶴各海軍工廠總務部長
各海軍工作監督長殿

(横須賀、吳、佐世保、舞鶴) 海軍工廠總務部長
各海軍工作監督長殿
内國各海軍工作監督長殿
各海軍工作監督長殿
各海軍工作監督長殿
新艦建造中ニ於ケル艦固有裝備ノ照明電燈
(目盛照明燈及表示燈ヲ含ム) 用電球處理ニ關スル件照會

記
一 建造所ハ常ニ新艦照明試驗用トシテ適當數ノ海軍制式照明電燈用電球ヲ調達シオクモノトス
二 建造所ハ新艦建造中艦引渡迄一項ニ依リ調達セル試驗用電球ヲ所定ノ照明電燈計畫ニ從ヒ表着シオクモノトス

三 新艦艤装員ハ艦引渡迄ニ所在又ハ最寄ノ軍需部ヨリ兵器簿ノ照明電燈用電球ヲ受込ミオキ艦引渡後直ニ之ヲ建造所艤装ノ試驗用電球ト換装シ取外シ電球ハ建造所ニ返却ヘルモノトス

○正誤

一月十六日附秘海軍公報第四九〇四號令達欄内令第一八號中「同掃海特務艇第三號型ノ項中「第二十二號」ヲ削ル

○本日軍極秘海軍公報第六六號(乙配付)發行セリ
配付先 關係各司令部、橫須賀、吳、佐世保、舞鶴各海軍人事部、吳海軍工廠、關係各學校

秘

海軍公報 第四九一四號

昭和二十年一月二十日(金)

海軍大臣官房

○令達

官房軍機密第一五六五號
船舶應急處理委員會規約中左ノ通改正ス
昭和十九年十二月三十日

陸軍大臣
海軍大臣
運輸通信大臣

別冊中船舶應急處理委員會ニ關スル陸海運通三省了解事項ヲ別
紙ノ如ク改ム

(内令提要卷一、三〇〇六二頁参照)

(別紙)
船舶應急處理委員會ニ關スル陸海運通三省了
解事項
一 委員會ハ事務室ヲ海軍省構内ニ置ク其ノ執務ニ必要ナル人
員及物件ハ海軍ニテ準備ス
二 幹事タル副委員ハ右事務室ニ於テ常勤スルヲ立前トス
三 海軍大臣ハ當分ノ間船舶救難本部ヲシテ委員會ノ決議ニ基
キ船舶應急處理作業ノ統制實施並ニ命令ノ通達遂行ニ當ラシ
ム

而テ帝國領土以外ノ地域ニ於ケル作業ノ實施ハ船舶救難本部
之ニ任ジ同作業ニ必要ナル民間救難作業關係ノ人員機材ハ船
舶救難本部之ヲ徵用シ經費ハ海軍之ヲ負擔スハ
右ノ外作業簡単ニシテ而モ現地自活ニ必娶リ小型船舶及作
戰上必要アル場合ニ於ケル大型船ノ應急處理作業ハ船舶救難
本部ト協議ノ上現地各軍並ニ各艦隊最高指揮官ニ於テ實施ス
ルコトヲ得

帝國領土内地域ニ於ケル作業ハ船舶救難本部ノ命令ニ依リ民
間救難業者ヲシテ實施セシム

陸、海軍部隊ハ積極的ニ之ニ協力ス

四 處理船舶ノ修理ニ關シ帝國領土内ニ於テスルモノハ陸、海
軍、運輸通信三省ニ於テ右以外ノ地域ニ於テスルモノハ陸海
軍兩者ニ於テ夫々本委員會ヲ通じ協議決定スルモノトス

(別紙)
軍務一機密第四四號
昭和二十年二月二十四日
海軍省軍務局長
關係各廳長殿
決戰下酒保物品ノ消費規正並ニ活用ニ關スル
件申進

艦船部隊其ノ他各部ノ酒保ニ於テハ軍隊タルノ特殊環境ニ基キ嗜好飲食物ノ販賣ヲ爲シ士氣振作ノ一端ニ供シツツアル處時局ノ進展ニ伴ヒ砂糖ノ需給逼迫ノ爲民需用甘味品類ハ皆無トモ稱スペク又主要食糧確保ノ爲酒類ハ極度ノ節減ヲ爲シツツアル實情ニ微シ部内ニ於テモ夙ニ之ガ消費規正ニ留意シ來リタル所ナルモ將來益之ガ強化ノ要アリ就テハ其ノ販賣方法ニシテ當ラ得ズ之ガ取扱亦濫ニ亘ルトキハ一般民心ニ影響スル所微妙且ツ重大ナル結果ヲ招來スル惧アルニ鑑ミ一層之ガ適切ナル實施ニ留意シテ販賣竝ニ取扱ニ關シ強力ナル規制ヲ行ヒ苟モ部外持出ノ如キハ絶無ヲ期スルト共ニ緊迫セル物資ヲ適正ナル需要ニ應ズル如ク活用シテ士氣ノ振作ニ資シ以テ決戦下酒保本來ノ使命達成ニ遺憾無カラシムル様趣旨徹底方特ニ配慮相成度

昭和二十年一月二十四日
航本機密第七五二號

海軍航空本部總務部長

關係各廳長殿
菜發動機二型及三型ビストンリング使用
區分ニ關スル件照會

首題發動機ノシリンドラヘ從來平行式シリンドラ（シリンドラ洞焼嵌後シリンドラ洞ノ研磨、ホーニング實施）ナリシ處左記號機以降テーパー式シリンドラ（シリンドラ洞ノ研磨、ホーニング後シリンドラ洞焼嵌實施）ヲ使用ノコトニ定メラレ候條別紙「菜二、三型シリンドラ及ビストンリング標準要領書」ニ依リビストンシリ

ングノ使用區分ヲ嚴守相成度

記

中島製 榴發動機三二型 第三二五〇〇二號以降
石川島製 榴發動機三一型 第三一二二號以降
(別紙ハ所要ノ向ニノミ之ヲ配付ス)

航本機密第七五二號

昭和二十年一月二十四日

海軍航空本部總務部長
海軍省軍需局長

關係各廳長殿
VDMブリベラ變節商車管用グリースニ關ス
ル件申進

首題グリースニ關シテハ目下研究中ナルモ不取敢七號グリースヲ使用ノコトニ定メラレ候條了知相成度

○難款

○本日軍械秘海軍公報第六七號（甲配付）發行セリ